

Title: 「明日はどっちだ」



徳田 敬太
Keita Tokuda 1985年
生まれの食べ歩き
好き。世界という大海
へ向け、今、旅立と
うとしています。

●最近のエントリー

- 📅 [ペルヘンティアン島・コタ
バル-2](#)
(2009.07.15)
- 📅 [ペルヘンティアン島・コタ
バル-1](#)
(2009.07.15)
- 📅 [クララトレンガヌ・マラ
ン・カパス島-3](#)
(2009.07.14)
- 📅 [クララトレンガヌ・マラ
ン・カパス島-2](#)
(2009.07.14)

●アーカイブ

- 📅 [2011年03月](#)
- 📅 [2011年02月](#)
- 📅 [2011年01月](#)
- 📅 [2010年10月](#)
- 📅 [2010年09月](#)
- 📅 [2010年08月](#)
- 📅 [2010年07月](#)
- 📅 [2010年06月](#)
- 📅 [2010年05月](#)
- 📅 [2010年04月](#)
- 📅 [2010年03月](#)
- 📅 [2010年02月](#)
- 📅 [2010年01月](#)
- 📅 [2009年12月](#)
- 📅 [2009年11月](#)
- 📅 [2009年10月](#)
- 📅 [2009年09月](#)
- 📅 [2009年08月](#)
- 📅 [2009年07月](#)
- 📅 [2009年06月](#)
- 📅 [2009年05月](#)
- 📅 [2009年04月](#)
- 📅 [2009年02月](#)
- 📅 [2009年01月](#)
- 📅 [2008年12月](#)
- 📅 [2008年11月](#)
- 📅 [2008年10月](#)
- 📅 [2008年09月](#)
- 📅 [2008年08月](#)
- 📅 [2008年07月](#)
- 📅 [2008年03月](#)
- 📅 [2007年11月](#)
- 📅 [2007年10月](#)
- 📅 [2007年08月](#)
- 📅 [2007年06月](#)
- 📅 [2007年05月](#)
- 📅 [2006年10月](#)
- 📅 [2006年09月](#)
- 📅 [2006年08月](#)
- 📅 [2006年07月](#)
- 📅 [2006年06月](#)
- 📅 [2006年05月](#)
- 📅 [2006年04月](#)
- 📅 [2006年03月](#)

●ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE



RSS

明日はどっちだ > 2009年07月 アーカイブ

09.07.15

ペルヘンティアン島・コタバル-2

クララベスからバスでコタバルへは直接行けなく、タクシーで乗りコタバルへ。

コタバル(Kota Bharu)はマレーシア東北部のタイとの国境に近い町です。やや大きいこの町は「新しい町」という意味で人口比率は分かりませんが、ほぼマレー人が町の人口を占めているでしょう。マレーシア国内でも最もイスラム色が濃く、他の町とは違った雰囲気を持っている町でした。

また、町から少し離れた場所は第二次大戦時の日本軍によるマレー半島上陸作戦の舞台となった場所もあります。

しかしこれまた、マレーシアの西側とは大違いで東側は島がたくさん海があるだけあって宿がものすごく安定しています。西もこうなればもう少し旅がしやすいのですが。

コタバルはタイとの国境近くの街ということもあり、外国人旅行者が昔からたくさん泊まっていたのでしょう。こども宿と呼ばれる外国人バックパッカーが泊まる宿がいくつかあります。



宿には猫やウサギがいて猫は自由気ままに動いてて、じゃれあってました。特に夜になると小さい虫にムキになりながら猫の手で、ちびちびやてるのを見てるのがちょっと楽しかったです。



コタバルのマーケット。

通りといい、壁といい、雰囲気、野菜の色、景色。マレーシアでも随一のフォトジェニックなマーケットではないでしょうか。





コタバル、王宮博物館



歴史博物館

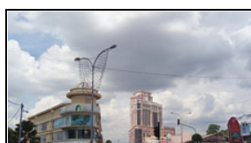


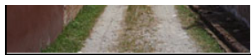


この今は博物館になっている建物も
 第二次大戦時、タイピンの北京ホテルと同様に
 日本軍の秘密警察が使っていた建物だそうです。
 中には一階が戦時中のことがたくさん展示してあって
 戦時中、日本軍が使った自転車作戦の自転車も展示してありました。
 これはマレーシア国内には日本軍の秘密警察の建物がたくさんあるっぽいですね〜。



手でご飯を食べたら机の上に置いてある、このポットで手を洗います。

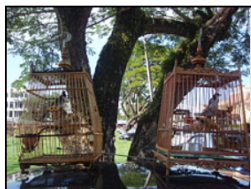




コタバルの中心。
マーケットとバス停などがあります。



バード シンギング コンテスト
中心地から少し離れたところでこのコンテストは開かれています。
小難しい顔をした男たちが歌声審査員たちの審査の結果を
思い思いの姿勢で待っていました。
音の高い声で鳴き続ける鳥たちの
いったい何を基準に審査していたのかは分かりませんが
一籠に数分は豊やしていたように思われます。
毎週金曜にやっています。
バスでコタバルから帰る時も
他の町でやっているのを目にしましたので
いろんなコロロでやっているのでしょう。

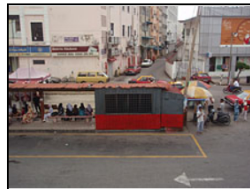




金曜の朝に開かれていたマーケット
 今までマレーシア半島内行った中でここが一番楽しかったです。
 ゼーラームンブマレー系で、やはり他の町との違いを感じざるを得ないです。
 それと、ここで店を出してるおぼちゃんたちも
 いい顔してて、しびれました。



バスターミナルの2階から。



街をふらふらと歩き続けます。
 この街の雰囲気は、他の街とは何か違います。
 東海岸だから？ マレー系が多いから？ 昔タイだったから？
 理由は分かりませんが、何か違います。



そしてトランスナショナルに乗りKLへ戻る。
時間がかかるので、早めに予定を組んで飛行機で帰った方が無難かもしれません。



とまあ、少し長めのマレーシア小旅行は終わりました。
次はどこへ行こうか。。。



post by 徳田 敬太 | 日時: 2009.07.15 | [ホームリンク](#) | [コメント \(0\)](#)

[明日はどちらだ > 2009年07月 アーカイブ](#)

ペルヘンティアン島・コタバル - 1

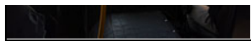
ペルヘンティアン島へ

マランからクアラトレンガヌへ行き
バスステーションからクアラベスッ(Kuala Besut)へ。
途中路肩には牛やヤギがいて
あー、マレーシアも牛が道端にいるかんじなんだ
と思いつながら約2時間。
そこから旅行会社に誘われるままにボートのチケットを購入。
他の国へ来たのではないかと見まごう程の欧米人の数で
自分以外は友達や家族、相方を連れていて楽しそうですね〜。

海は風を思わせる落ち着ぎで、
前回のバス島とは比べ物にならない程の安定感。
約40分でペルヘンティアン島(Pulau Perhentian)に到着。

昔、この島はマレーシアとタイの貿易の通り道としての役割を担っていました。
なのでペルヘンティアン島の意味は止まる場所とかそんなかんじです。。
島はベサル島 大きい島(Perhentian Besar (Big Perhentian))
と、クテル島 小さい島(Perhentian Kecil (Small Perhentian))
の二つがあって、自分が行ったのはクテル島です。
こっちの島のほうが安宿がたくさんあります。





ベルヘンティアンの2島までのボートはクアラベスツ(Kuala Besut)から出てます。
と、一人旅の寂しさを感じ
プロンドヘアーの方たちの後ろに日本人が一人くっついて出発です。

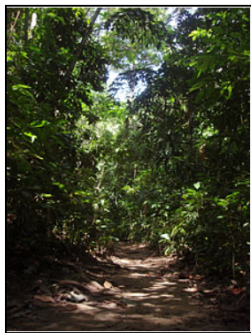


クチル島の真ん中に反対側の岸まで歩いて行ける道があるだけで
道路がなく観光客たちがいるビーチには車などは走ってません。
なので島から島、岸からダイビングポイントやシュノーケリングポイントまで行くのには
観光客たちはボートを使わなければいけません。
せわしくいつも朝から夜まで、海上を滑るように走っています。

このビーチは数百メートルある長いビーチでロングビーチと呼ばれています。
色とりどりのパラソルが立ち並び
まさにここも、白い砂浜、青い海の南国です。
肌が真っ赤に焼けた欧米人たちが強そべり
サングラスをかけながら本を読んだりしています。
あるいは、黒いウエットスーツに身を包み
島の回りに広がる珊瑚礁を見にダイビングツアーを
している人たちもたくさんいました。

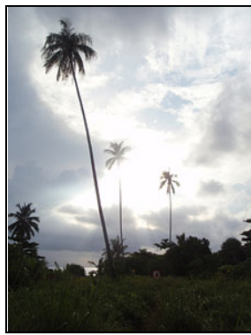


ここを通ると島の両海岸を行き来できます。



朝日はロングビーチのちょうど正面から上がってくるため
まだ水平線に近い太陽から照らされた光が海面の揺らめきに乱反射して
きらきらと音を立てるように光っていました。

ベルヘンティアンの朝です。



森の斜面に何個もシャレーがあり、その内の一つに泊まりました。

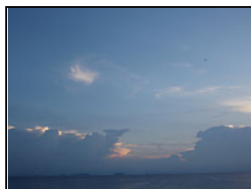


ロングビーチの前はだいたい腰程の高さの浅瀬が続いているので
気軽に泳げますし、つかれます。
気持ちいい海ですね〜。
たまにマレー人のおばちゃんたちがボートに乗って
出勤やら帰宅やらでこのビーチに出現するのですが
ビーチにいる人はほぼ欧米人のため、海パン一丁当たり前
ビキニももちろん普通で肌の露出が多いです。
だから、逆にあの肌を隠したスタイルがもの凄く不自然に思えてならなかったです。
遠くから見ていると、まるで何か異物でもこのビーチに存在するような
感覚まで感じてしまいました。

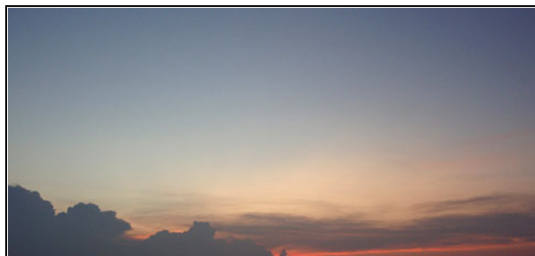


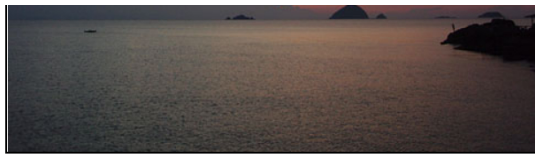


夕日もロングビーチから歩いて15分くらいの反対側のビーチから見えます。
長く横に広がる雲は各々の色が微妙に違くて
青く光るものや、夕焼けに染まり赤くなるもの
その中間でやや紫色に落ち着くものもあり
また稲雲を含み、たまに光る雷雲もありました。
しかし、次第にそれらも熱帯の一つの夜の中へと沈んでゆきます。



どっちのビーチでも夕食の準備が進んでいて机が並べられ
二つの色に分かれたろうそくが各々の机の中央に置かれています。
バーベキューもここでは定番のようです。
昼の森とは逆に暗く、静まり返った印象を身える道を進み
ロングビーチに戻ったら今度は満月が上ってきました。
そういえば、この時は100%忘れてましたが
この日は7月7日の七夕でした。





島の食事は西欧の観光客用になっています。
さらに少し高い。
一人旅の寂しさが重くのしかかり、ビーチの食事はレベルが高いです。



そして、頼んでいたボートに乗って島を離れます。



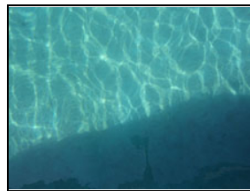
少し沖に止まっているボートに乗り換え、数十分他の観光客の乗船待ち。
緩やかな波がボートを揺らしますが、
そんな揺れでもあんまり長いと気分が悪くなってしまいうやもしれない。

と思い、海面へ目をやります。
まるで亀の甲羅のように光がゆらゆら形作られています。

そういえば、おっちゃんが
この島にはタートルズベイってのがあって
そこにはちょうどこの7月くらいのシーズンに亀がたくさん泳いでくんだよ。
大丈夫、だいじょうぶ、見れなかったらお金返すから。ホント。
って言っていたのを思い出しました。

あぁ、だからこれが亀の甲羅に、...とっていると
少し離れたとこに止まっている別のボートに観光客を乗せるため
波が揺れバランスを崩し変形していました。

他の観光客たちが乗り込み
揺りの海は波もうねりもない優しい、分かってくれる波でした。



クアラベスッへ戻り、コタバルへ。

post by 徳田 敬太 | 日時: 2009.07.15 | [バナーリンク](#) | [コメント\(0\)](#)

カテゴリ:

[明日はどちらだ > 2009年07月 アーカイブ](#)

09.07.14

クアラトレンガヌ・マラン・カパス島 - 3

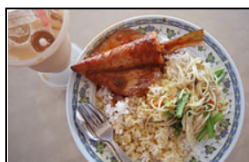
クアラトレンガヌの町から少し南にある小さな村のマラン(Marang)へ。
ローカルバスの中は金曜日だからだったのでしょうか、たくさんの人が乗ってきて
大人も子供も正装している人たちが多くこれからモスクへ行くのでしょう。

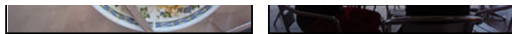
マランの村は、トレンガヌの町とは比べ物にならないくらい小さいです。そして静か
海沿いの村なので漁に出る用のボートもたくさんあり
食堂にはイカが丸ごと入ったマレー料理もあって、これは美味しかったです。

この町は日本の地球の歩き方には載ってなくて
ロンリープラネットに載ってるので日本人はあまり来ないそうです。
ほとんどの旅行者はこの町からボートで行ける
カパス島を目指します。



ナシチャンプルー、好きなおかずをご飯に盛って食べます。
イカが旨いです。





静かで小さな漁村といったかんじでしょうか。
ビーチに人影はなく、波の止も浄のない音だけがマランの海岸に響いています。



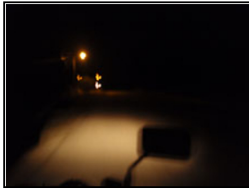
アイスカッチャン。かき氷です。





宿に泊まっているのは自分一人だけで
宿のおっちゃんに近くでやってるナイトマーケットに連れて行ってもらいました。
ほとんどの屋台の食べ物食べたコトがあるものだったのですが
その中に焼き鳥があって(普通はサテーという焼き鳥なのですが)しかも少し筋っばい
思わずそこを通るたびに一本、また一本と買ってしまいました。
熱帯魚も小さいコップに入れて売ってます。

その後はおっちゃんの家へ連れて行ってもらいました。
こういうのはたしていつぶりだろうか。。
と思いつつ、お茶をもらって
4人兄弟の末っ子の1才くらいのお子さんに
たまに抱まれながら、じっと見られながら座ってました。
ああいう情況、どうすればいいかキツカないです。。



カパス島(Pulau Kapas)へはマランの村のボート乗り場から行けます。

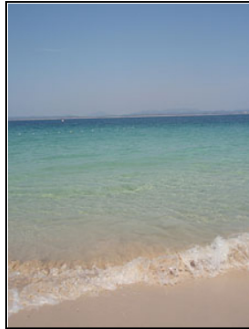


普通はボートと宿を揃ってるカウンターで買う必要があったのですが、
それを知らず、なんとなくボートに乗って出発。
10人乗りくらいのボートで、さほど波も高くなく
軽快に進んで20分くらいでカパス島に到着。





まさに青い海に、白い砂浜、南国の島です。
 土日や大型連休にはマレーシア人たちがたくさん来るそうなのですが
 それ以外の平日などの日は、とてもとても静かだそうです。
 現に行ったビーチによって人の数が違って
 端っこにあるビーチは人が全然いなくて、楽園を少し感じさせました。
 シュノーケリングとかもできます。

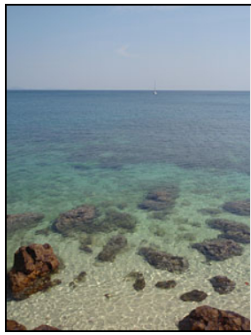
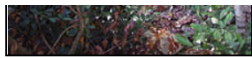


マレーシア人、とくにマレー系の男の人や女の人でも服を着たまま海へ入るようです。
 宗教上、肌を多く露出したらいけないのですが正直動きにくそう
 で海で遊んでる人や、ビーチを歩いている人たちは
 びたびたと、肌に服が吸い付くように遊んでました。
 どんな服かと思ったら、普通の動きやすい服装。というかんじです。

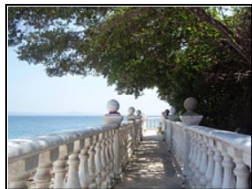


島は小さくて宿泊できる場所もいくつかあります。
 前述したように、歩き方には慣れていない島ですが
 ちゃんとバックパッカー用の安宿がいくつかあります。
 しかも、海が見えるけど森の中にあるようなものや、
 ちょっと孤立した場所の宿、多くがシャレー式でいい感じでした。
 全体的にこの島の宿は素敵です。





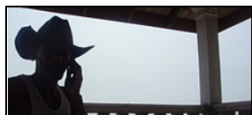
島を一周する道もないくらい小さい島ですが、時期をみていけば人があまりいないので、ゆっくりするには良いかもしれません。他の島よりも場所的に行き難いですし。

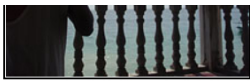


新人消防士の海上訓練を見ながら帰りのボートを待っているとそこからボートは出ないとのこと。。なぜなら海は荒れ、風が強でそこにボートが近づけないからです。そりゃー、消防士たちも訓練しながら吐いてますよね。。

他の人に助けてもらいながら、ホントは持ってなきゃダメな帰りのボートチケットなしにボートに乗せてもらいました。内心この海だと帰りたくなかったですが。他の華人たちと共に波の影響を受けにくいビーチからです。しかし、ここにも海の荒さは伝わってきてまるでビーチの砂浜が唸りをあげて、手をひくようにボートを海へ引っ張って行きます。行きのボートよりも小さいボートにて出発です。全員ライフジャケット着用。荒ぶる波、うねりは出発してすぐにボートに影響をし、小山のようなうねりを越える度に船底を幾度となく海へ叩き付けます。叩き付けられ海水がはねて華人たちにかかる度、海に抗って進むボートと絶叫する海のように大きな笑い声をあげて、何言かを叫んでました。あー~~~~っはっはっはあ、は~~~~！！ああ~~~~！！カメラを持っているんだ、やめてくれ。興奮冷めぬ華人たちとは逆に自分の右手は確実に震える心を抑えるようにじっと握っています。どうか、海よ静まりたまえ。

まるでナチュラル絶叫マシンです。マランへ戻り接岸した時は、不安が残る心臓はしばらく強く鼓動してました。やはり船は苦手です。。





そして、無事マランに到着。



ベルヘンティアン島へ。

post by 徳田 敬太 | 日時: 2009.07.14 | [パノラマリンク](#) | [コメント\(0\)](#)

カテゴリ:

[明日はどっちだ > 2009年07月 アーカイブ](#)

クアラトレンガヌ・マラン・カパス島 - 2

東海岸には西海岸と比べて中華系の人はあまり多く住んでいません。
このクアラトレンガヌの町には唐人街というチャイナタウンがあって、
そこにまとまって住んでいる印象でした。





X:Terengganu32.JPG

唐人街の入り口にはこんな門があります。

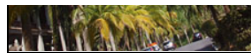
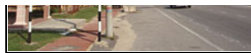


クアラトレンガヌのバスターミナル



トレンガヌ州立博物館
町から約6キロ離れたこの博物館はマレーシアで一番規模が大きくて
噂では東南アジアで一番とか何とか、
いくつかの高床式の大きな建物に分かれています。
トレンガヌの歴史、スルタンの展示、各民族の結婚式の様子、動物の剥製など
さまざまな展示がありますが
この行った時はタイミングが悪くて
ちょうど前の展示が終わり、民族楽器と音楽、の展示に変えてる最中でした。

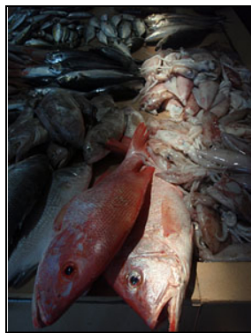




博物館は伝統的な建築を元に造られています。
それにしても、ここの高床は高いです。



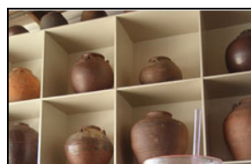
マーケット



ランプータンも今は旬のようで
バスに乗ったり、そこへんを歩いたりすると
大きすぎず小さすぎない木に赤い小さな実が
ぶわぁーっとわざと人が写り掛けたかざりのようにたくさん実っています。
しかし、この実もドリアンと同じく見た目が日本人には馴染みがないです。
赤いピンポン球程の小さな実にも
もじゃもじゃした先端が緑の毛のようなものに覆われています。
マーケットに行くともこれたくさん種があるので、
若干不快感を感じさせるような
もじゃもじゃを確かめるように実を触ると
おい、食べる！
と、おっちゃんに言われ一実。
隣にいたおばちゃんにも
ちょっとあんた、なに？ 食べなさいよ、ほら。 と、また一実。
いただきました。
めっちゃ甘くておいしいだろっ！って果物屋さんたちは言っていました。
旬の果物はおいしいですね。ありがとうございました。



Ping Anchorage Backpackers Lodgeの屋上のフルーツジュースのサイズには感激です。
ビックサイズを頼むと軽く1杯越えたジョッキが出て来て楽しませてくれます。





クアラトレンガタの町中心から少し行ったトコにある海岸 Pantai Batu Buruk



この時はどんよりとしかかる雲が雨を今にも降らそうとしている空でした。

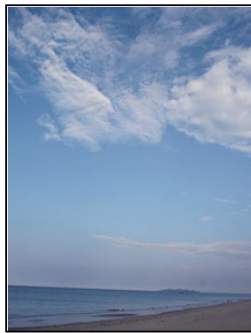


速い潮の流れと強い波で泳ぐには通っていません。
多くの人は浜辺に座ったり、その前のベンチに座ったりと
ゆっくりしている人たちがたくさんいました。
ここへ来たら揚げアイスを食べないと帰ってはいけません！
と、ガイドブックに書いてあったので
いざ食べるとなると少し怖い気もしましたが食べときました。





ビーチをぶらぶらしていると、少しずつ雲が引いて夕方の始まりの空が見えてきました。

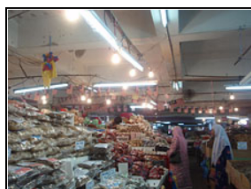


この町、クアラトレンガヌは地方の町ですが、やはり宿が安定しているからでしょうか。他の町とは違って少しゆったりした雰囲気を感じて過ごしやすいです。



朝のマーケット。

このマーケットも朝は賑わっていました。



次はマランからカパス島を目指します。

post by 徳田 敬大 | 日時: 2009.07.14 | [ホームリンク](#) | [コメント\(0\)](#)

カテゴリ:

[明日はどっちだ](#) > 2009年07月 アーカイブ

クアラトレンガヌ・マラン・カパス島 - 1

今回はマレーシア半島の東海岸の真ん中から北部まで行ってきました。

クアンタン(Kuantan)、クアラトレンガヌ(Kuala Terengganu)、マラン(Marang)、カパス島(Pulau Kapas)、ペルヘンティアン島(Pelau Perhentian)、コタバル(Kota Baru)。

最初に、いつものようにKLのブドリヤ・バスステーションから昼くらいに出発しようと思って行くとうつぶす。東北部は以外に遠くて、昼以降に出発のバスはないとのこと。朝か夜行のみ。仕方がないから東海岸の真ん中あたりにあるクアンタンへ。

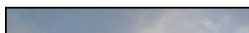
マレー半島をKLから東へ向け出発した時のちょうど中継地点だからでしょうか、これで3回目になってしまいました。



クアンタン・バスターミナル



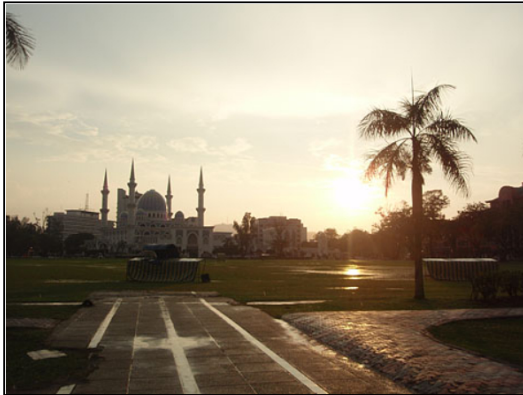
それにしても、この町は本当に宿に困ります。。普通のバックパッカー向けの宿があってくれればいいのですが、





Kuantan0313.JPG

ここに着くのはいつも夕方くらいで
行くと毎回キレイな夕焼けを見せてくれます。



空日の朝 クアラトレンガヌへ移動です。
この町の名前の由来はトレンガヌ川が流れている事から
トレンガヌ川の河口という意味だそうです。

しかし、バスのチケットを買う時に
クアラトレンガヌ！
と言っても、はぁ？？ と、顔をされまして
よく聞いてみると、トレンガヌって言っているっぽかったです。
スベルも Kuala Terengganu なので、やはりトレンガヌなのでしょう。か。
マレーシアの中でも特にマレー色の強い人口約30万人のこの町は
マレー系人種の比率が95%以上とも言われています。
じっさい町にいても、バス停や食堂、道に歩いている人は
ほぼマレー系でした。
しかし、何百年も前は最初にこの町を開いたのは中国人たちだそうです。
今でも、華人たちは住んでいるのですが、
彼らは街の一角にある「唐人街」というところにあつまって多く店を構えていました。



泊まった宿(Ping Anchorage Backpackers Lodge)に感動をしてしまいました。
なんてって今まで行ったマレーシアのマラッカ以外の地方の町に
外国人安旅行者の行く宿的な場所がなかったの、
はぁ～あ、
どこでもまた溜め息をつくようにガイドブックに載っている一番良さげなとこへ行くと
これはっ！
今までにない新鮮な、部屋に雰囲気！ 屋上にもまた良いレストラン！
マレーシアの地方都市にも、こんな場所があったのかーっ！
さすが、マレーシア有名リゾートアイランド、レダン島を主に振っている旅行会社だけある。
と、一人で感動してました。



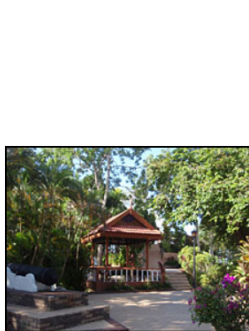
レストランの料理もおいしいです。





ブキット・プテリ(Bukit Puteri)

ちょっと小高い丘の上に昔の砦があります。



この町だけではなく他の町、そこらへんの道、車のトランク一杯、いたるところにドリアンがたくさん並べられています。

トゲトゲしたこのドリアン

やはり、こないた食べたドリアンのように、きつ〜〜い臭いはせず
おっちゃん日く、めっちゃ安いよ！このドリアン！って言っており
横で見ると、おめえーも食いなって一つもらいました。
とでもとても クリーミーな感じと、濃い味わいです。





カテゴリ:

post by 徳田 敬太 | 日時: 2009.07.14 | [バナーリンク](#) | [コメント \(0\)](#)